

絵本大賞入選者へのメッセージ

はじめに―総評

荒川区の小中学生や一般の区民に、絵本を読んで、感動したり新しく気づいたりしたことがあったら、柳田宛におたよりを書いてくださいと、毎年夏に呼びかける活動を始めて、今回ではや十二年になりました。

この呼びかけに対する子どもたちや大人たちの反応は、第一回の時から大きく、この数年は毎年一千通を超えるおたよりが寄せられるほどになっています。

寄せられるおたよりは、数が多いだけでなく、一通一通の内容がとてもよくて、《あっ、こんな風

に絵本の意義に気づいたのか》《まだ一年生なのに、こんな読み方ができるんだ》《子どもの感性って、すばらしいものだ》《絵本は人生の友だ》などと、一通ごとにこの大賞を続けてきてよかったという思いが、年々強くなっています。

今回は、子どもの部も一般の部も、すばらしいおたよりを大賞に選ぶことができました。

すばらしいおたより（作品）に対する私の感想と選評は、各作品ごとに「メッセージ」として付記しました。ぜひ各作品とともに、私のメッセージもお読みください。

荒川区の子どもたちや一般の人たちが、どのように日常のなかで絵本読書をしているか、そのレベルの高さが、それぞれのおたよりに投影されていることがわかるでしょう。荒川区のなかで、家

庭の絵本文化、地域の絵本文化が根づいていることを感じます。